

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	生 関 文 翔
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p>リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の内容に関する基礎的研究 — ダンス指導の「悩み事」を手がかりにして —</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 教授 齊 藤 一 彦</p> <p>審査委員 教授 上 田 毅</p> <p>審査委員 教授 木 原 成 一 郎</p> <p>審査委員 准教授 岩 田 昌 太 郎</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本論文は、教員におけるダンス指導の「悩み事」を手がかりにして、リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の内容を検討したものである。具体的に、次の3点の研究課題が設定された。それは、(1) リズム系ダンスにおける指導の「悩み事」の内実について、性別・校種・教職経験年数・ダンス指導歴の差異から調査すること、(2) 文部科学省が示しているリズム系ダンスの指導内容とリズム系ダンスの実践研究をもとに、リズム系ダンスにおける教員研修の目標を検討すること、(3) (1) と (2) で得られた知見とダンス未経験の教員の「悩み事」を手がかりとした教員研修を実施し、その効果と課題を検証すること、であった。</p> <p>本論文は、第1章の序論から始まり、第5章の結論までの構成となっている。</p> <p>第1章の序論では、わが国の学校体育におけるダンス指導の現状と課題に関する先行研究を整理することで、本論文で取り組むべき課題が明らかにされた。そして、リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の内容を検討するために、PDCAサイクルを用いた概念的枠組みが示された。</p> <p>第2章では、教員のダンス指導に関する「悩み事」および、リズム系ダンスの教員研修において教員が求めていることに関する検討がなされた。研究の方法として、量的研究が行われた。具体的に、質問紙調査法が用いられ、性別・校種・教職経験年数・ダンス指導歴の差異という観点から調査がなされた。その結果、校種の差異なく上位項目として挙げられるリズム系ダンスにおける指導の「悩み事」は、「示範ができない」、「よい動きが分からない」、「指導内容が分からない」、であることが示された。加えて、ダンス指導歴において、「悩み事」の階層性が示されることも明らかにされた。</p> <p>第3章では、リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の目標が検討された。研究の方法として、リズム系ダンスの文献研究が行われた。その結果、リズム系ダンスにおけるよい動きを引き出す視点には「動きのリズム（空間、時間、力の観点）」と「音楽のリズム（使用する音楽そのものの強弱や長短、アクセント）」の2つがあり、それらを同調させることがよい動きにつながることを示された。加えて、リズム系ダンスの教員研</p>			

修の目標として、教員が「動きのリズム」と「音楽のリズム」について理解することを取り入れる必要性が示された。

第4章では、第2章と第3章で示された結果をもとに、PDCAサイクルに基づいて検討した教員研修が実施され、その効果と課題が検証された。まず、第4章で対象とした教員の「悩み事」および求める教員研修の内容の調査結果をもとに、教員研修の内容が計画（Plan）された。その後、1回目のリズム系ダンスの教員研修が実行（Do）され、その成果と課題が評価（Check）、改善（Action）された。その改善（Action）から得られた課題をもとに、2回目のリズム系ダンスの教員研修が計画（Plan）、実行（Do）され、その成果と課題についても評価（Check）、改善（Action）された。研究の方法として、質的研究が行われた。とりわけ、第4章では、リズム系ダンスにおける教員研修実施前後の「悩み事」および今後求められる教員研修の内容だけではなく、教員研修後の授業実践で生じた「悩み事」および今後求められる教員研修の内容についても明らかにされた。

第5章の結論では、教員のリズム系ダンスにおける指導力を向上させるために必要な教員研修の時間や、具体的な内容について検討がなされた。まず、第2章（量的研究）および第4章（質的研究）で対象となった教員のリズム系ダンスにおける指導の「悩み事」の内実を比較、検討することにより、教員研修が解決策となるニーズが決定された。次に、第3章で得られた知見をもとに、リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の目標が設定された。最後に、第2章、第3章、第4章で明らかになった知見をもとに、リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修として設定する時間や、具体的な内容が整理された。

本論文は、以下の3点で高く評価できる。

1. これまで明確な定義づけがなされていない教員の「悩み事」の概念を整理したこと。
2. 教員のダンス指導の「悩み事」を性別・校種・教職経験年数・ダンス指導歴という観点から量的に調査し、その「悩み事」を手がかりにして、リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の内容を検討したこと。とりわけ、ダンス指導歴によって「悩み事」の階層性が示され、教員研修の内容の順序性を示すことができたこと。
3. リズム系ダンスの指導力の向上に資する教員研修の目標について、教員が、「動きのリズム」と「音楽のリズム」について理解し、児童生徒にこれら2つのリズムを同調させて踊る指導ができるようにすること、などを明らかにしたこと。また、この目標を達成するための教員研修の内容について、短期的な支援と長期的な支援に分類し、具体的に示すことができたこと。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 3年 2月 12日